

人生の意味が私たちの心次第なら、  
満足していた人生を悔いることがあるのはなぜか

哲学若手研究者フォーラム  
2024/07/13 太田泰幹

# 自己紹介

---

- 一橋大学D1
  - <https://researchmap.jp/taiki-ohta>
  - [sd241003@g.hit-u.ac.jp](mailto:sd241003@g.hit-u.ac.jp)
  
- **関心は情動×価値**
  - 新進研究者「判断と情動はどのように対立し、また調停されるのか」
  - 一橋紀要「道徳的判断において、直観と熟慮はどのような役割を果たすのか」
  - 哲学の門「道徳的判断において、共感はどのような役割を果たすのか」
  
- 博士課程から、人生の意味について考え始めました

# 発表の流れ

---

---

1. はじめに . . . 人生の意味とは何か？
2. Wolfの客観主義 . . . Wolfの見解と、啓示の反論
3. Wigginsの主観主義 . . . Wigginsの見解と、批判への応答
4. 論争可能性 . . . 対立点としての論争可能性
5. おわりに . . . まとめ

# 1. はじめに：そもそも、人生の意味って？

---

---

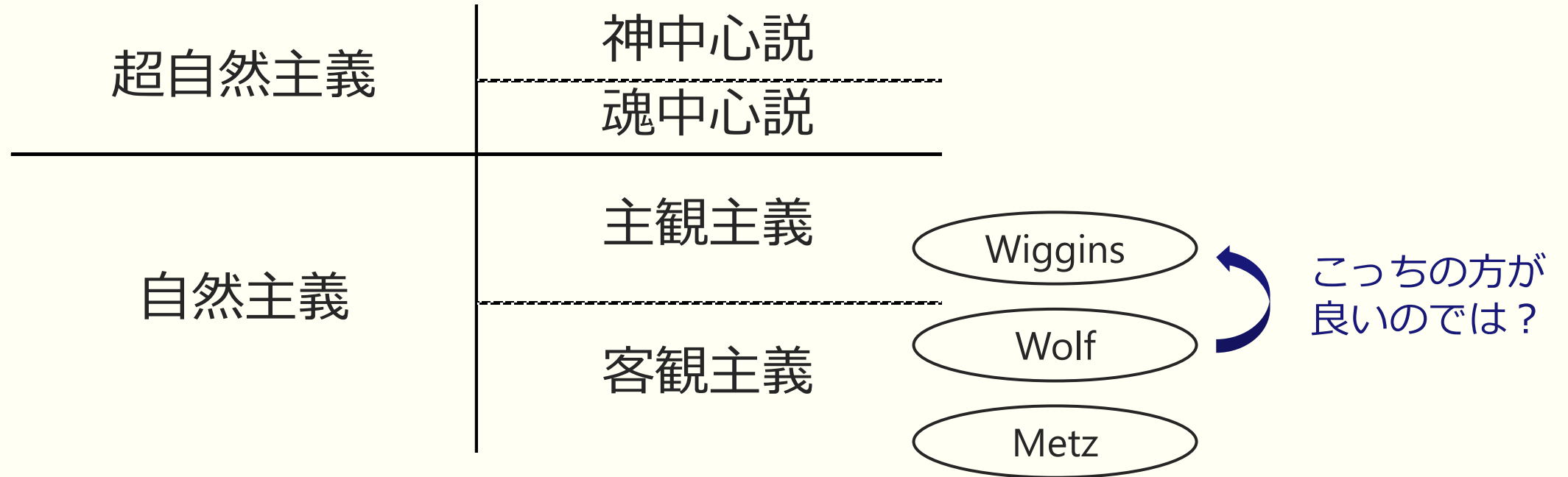
- 〈人生の意味〉は、古くて新しい問い
    - 19世紀から . . . Schopenhauer, Nietzsche, Heidegger, Sartre etc.
    - 20世紀後半 . . . Nagel, Nozick, Wiggins
    - 21世紀以降 . . . Wolf, Metz, Landau etc.
- 本発表ではこのへんに焦点化
- 分析系に限定しても、コンセンサスはない
    - 人生の理解についての問い
    - 人生の価値についての問い

# 1. はじめに：価値派の勢力図

---

---

- 価値派の中でも、有力なのは客観主義



## 2. Wolfの客観主義

---

---

1. はじめに
2. Wolfの客観主義                      . . .      Wolfの見解と、啓示の反論
3. Wigginsの主観主義
4. 論争可能性
5. おわりに

## 2. Wolfの客観主義：適合的充足説

---

---

- Wolfの出世作は「道徳的聖者」 (Wolf 1982)
  - 私たちは必ずしも〈道徳的聖者〉になりたいわけじゃない
    - 単なる幸福には回収されない価値としての〈人生の意味〉

### 適合的充足説 (fitting fulfillment view)

客観的魅力に主観的魅力が会うとき、意味が生まれる。

Meaning arises when subjective attraction meets objective attractiveness.

- あくまでこれは客観主義であって、主観主義ではない
  - 〈啓示の反論 epiphany objection〉 (Johansson & Svensson 2022)

## 2. Wolfの客観主義：啓示の反論

---

---

- 私たちは、人生を振り返って「目から鱗が落ちる」ことが

間違っている。おまえがこれまで生きがいとし、今でもそれによって生きているもの——それは全部、おまえの目から生と死を隠す嘘であり、まやかした。

トルストイ『イワン・イリイチの死』

- 人生の意味が心次第なら、悔いることがあるのはなぜか
  - 何となくは分かるけど、具体的には何を批判している？
  - 三つの解釈を提示



## 2. Wolfの客観主義：啓示の反論の三つの解釈

---

### 1. 世界との関わりはいつでもいいことになってしまうから？

- 主観的反応さえあれば、人生は意味をもつ？
- 〈経験機械〉でもOKなら、世界の在り様はいつでもいいことに

### 2. 人生の意味判断の真偽がいつでもよくなるから？

- 人生の意味判断は、主体の感情を表出しているだけ？
- だとすると、「間違っている」感じを説明できないことに

### 3. 人生の意味の価値基準は心的独立なはずだから？

- 1, 2を考えれば、人生の意味は心の側ではなく世界の側にあるはず
- 主観主義は、1, 2を踏まえてなお心的独立性を否定できるのか

➤ Wigginsの〈賢明な主観主義〉なら、できる

### 3. Wigginsの主観主義

---

1. はじめに
2. Wolfの客観主義
3. Wigginsの主観主義 . . . Wigginsの見解と、批判への応答
4. 論争可能性
5. おわりに

### 3. Wigginsの主観主義：世界との関わり（1）

---

Q1. 主観主義だと、世界との関わりを説明できない？

A1. それは〈素朴な主観主義〉

- 同じ主観主義でも、Taylorの素朴な主観主義は間違っている
  - シーシュポスには〈岩を運びたい〉という欲求を植え付ければOK？
  - この路線は、価値に関する心理学的メカニズムを無視している
  - 私たちは、欲求の対象に価値があると思うから求めるのであって、欲求の対象だからそれに価値があると思うわけではない
  - （それって客観主義では？ というつつこみはもう少しお待ちを）

### 3. Wigginsの主観主義：世界との関わり（2）

---

Q1. 主観主義だと、世界との関わりを説明できない？

A1. それは〈素朴な主観主義〉

- これは、Landau（2021）が言うところの外在主義
  - 内在主義：主体の内的要因（感情や意図など）が人生に意味を与える
  - 外在主義：主体の外的要因（行為とその影響）が人生に意味を与える
  - これらは主観主義／客観主義とは（少なくとも理論上は）独立
    - WolfもWigginsも外在主義に立つので、  
Q1は両者の対立点ではない

### 3. Wigginsの主観主義：判断の真理適合性（1）

---

---

Q2. 主観主義だと、人生の意味判断の真理を説明できない？

A2. むしろ、客観主義よりうまく説明できる

- A1を考えれば、当然人生の意味判断は真理適合的
- ただし、Wigginsの真理論はそれ以上のことを言っている
  - 主観主義のポイントは、価値判断の真理の特殊性を強調すること
  - 科学的判断が関わる真理は〈端的な真理 plain truth〉
  - 価値判断が関わる真理は〈主張可能性 assertibility〉

### 3. Wigginsの主観主義：判断の真理適合性（2）

---

#### Q2. 主観主義だと、人生の意味判断の真理を説明できない？

その人生は生きるに値するものだ（あるいは、去るに値するものだ）といった判断は単純かつ明白に真である、と想定することはかなしい幻想であろう。われわれはそうした種類の「固い地盤（terra firma）」をもつことはまったくできない。（Wiggins 1987a: 124=2014: 195）

- A1を考えれば、当然人生の意味判断は真理適合的

「私はこれをしなければならない」や「これが私の生きる道であり、それではない」といったことの主張可能性はそれらが端的な真理であることに存する、と想定する人は誰でも、単に惑わされているのである。（Wiggins 1987a: 126=2014: 198）

### 3. Wigginsの主観主義：判断の真理適合性（3）

---

---

Q2. 主観主義だと、人生の意味判断の真理を説明できない？

A2. むしろ、客観主義よりうまく説明できる

- これは、Lynch（2004）の言う〈スコープ問題〉に見える
  - 対応説的な一元主義では、異なる言説領域の真理を説明できない
  - 標準的な対応は、真理の多元主義に立つこと
  - 客観主義者は、対応説を前提している？ (Metz 2013: 171-2)
- Q2に関して、Wigginsの真理論は客観主義より有利でこそあれ、不利ではない

### 3. Wigginsの主観主義：人生の意味の心的独立性（1）

---

---

Q3. 主観主義だと、人生の意味の心的独立性を説明できない？

A3. それはそう。むしろ、人生の意味は反応依存的

反応依存性テーゼ（response dependency thesis）

xが価値Vをもつのは、xが特定の感情Eを適切（appropriate）にするようなものであるとき、かつそのときに限られる。



### 3. Wigginsの主観主義：人生の意味の心的独立性（2）

---

---

Q3'. それだと循環しない？

反応依存性テーゼ（response dependency thesis）

xが**可笑しい**のは、xが**愉快**の感情を適切（appropriate）にするようなものであるとき、かつそのときに限られる。

### 3. Wigginsの主観主義：人生の意味の心的独立性（3）

---

---

Q3'. それだと循環しない？

A3'. それもそう。これは分析じゃなくて〈説明 elucidation〉

- Wigginsによれば、価値は世界の在り様に還元し尽くせない
  - それでも、感情に基づいて少しずつ明らかにしていくことはできる
  - （発表者の理解だと）これは〈柔らかい地盤〉を確保すること

### 3. Wigginsの主観主義：人生の意味の心的独立性（4）

---

---

Q3". じゃあ、xが感情Eを「適切にする」って何？

反応依存性テーゼ（response dependency thesis）

xが価値Vをもつのは、xが特定の感情Eを**適切（appropriate）にする**ようなものであるとき、かつそのときに限られる。

### 3. Wigginsの主観主義：人生の意味の心的独立性（5）

---

---

Q3". じゃあ、xが感情Eを「適切にする」って何？

A3". 私たちの実践に照らして逸脱的ではない、ということ

- 価値述語は、三つの局面を通過して適切性を獲得する
  1. 〈性質、反応〉のペアが十分に確立（e.g. 可笑しさ、愉快）
  2. そのペアは、考慮事項によって批判・説明・擁護可能
  3. その性質を指す述語は、明示的な相対化なしに使用可能
- こうして、価値述語は適切性と同時に論争可能性を獲得

### 3. Wigginsの主観主義：人生の意味の心的独立性（6）

---

---

Q3. 主観主義だと、人生の意味の心的独立性を説明できない？

A3. それはそう。むしろ、人生の意味は反応依存的

反応依存性テーゼ（response dependency thesis）

xが価値Vをもつのは、xが特定の感情Eを適切（appropriate）にするようなものであるとき、かつそのときに限られる。

- Q3に答えることを、Wigginsは拒否
  - したがって、Q3こそが対立点

## 4. 論争可能性

---

1. はじめに
2. Wolfの客観主義
3. Wigginsの主観主義
4. 論争可能性                      . . .                      対立点としての論争可能性
5. おわりに

## 4. 論争可能性：WolfとWigginsの対立点

---

---

- ここまでのまとめ

対立点はココ

	内在主義／外在主義	一元主義／多元主義	心的独立／反応依存
Wolfの客観主義	外在主義	一元主義？	心的独立
Wigginsの主観主義	外在主義	多元主義？	反応依存

➤ 心的独立性（MI）テーゼ vs. 反応依存性（RD）テーゼ

## 4. 論争可能性：MIテーゼのモチベーション（1）

---

---

MI

MIテーゼを守りたいのは、一般的な言語実践を説明したいから

「岩を押し上げ続ける人生に意味はない」

「マザー・テレサ／大谷翔平の仕事は大きな意味をもつ」



## 4. 論争可能性：MIテーゼのモチベーション（2）

---

---

MI

MIテーゼを守りたいのは、一般的な言語実践を説明したいから

RD

RDテーゼのもとでも、逸脱的な言語実践は不適切

MI

RDテーゼでは、一般的な言語実践の主張可能性しか確保されない

RD

価値判断に〈固い地盤〉は無い

## 4. 論争可能性：MIテーゼのモチベーション（3）

---

---

MI

MIテーゼを守りたいのは、一般的な言語実践を説明したいから

RD

RDテーゼによっても、MIテーゼのモチベーションは満足できそう

MI

RDテーゼでは、一般的な言語実践の主張可能性しか確保されない

RD

価値判断に〈固い地盤〉は無い

## 4. 論争可能性：RDテーゼのモチベーション（1）

---

---

RD

真理の多元主義を前提すれば、RDテーゼの方が説得的

RDテーゼを守りたいのは、論争可能性を確保したいから

## 4. 論争可能性：RDテーゼのモチベーション（2）

---

---

RD

RDテーゼを守りたいのは、論争可能性を確保したいから

解決できない実質的な不一致がありうるにもかかわらず、その可能性によって部分的に条件づけられた仕方で、われわれは、推論、意見の転向、批判というなじみの過程のなかで可能な限りやり抜かねばならない——しかも、そうしたことが成功する保証はないし、そうした保証は、獲得不可能であるのとほぼ同程度に不必要だということである。（Wiggins 1987b: 210=2014: 273）

## 4. 論争可能性：RDテーゼのモチベーション（3）

---

---

RD

RDテーゼを守りたいのは、論争可能性を確保したいから

その上、真理の多元主義を前提すればRDテーゼの方が説得的

MI

大切なのは、一般的なレベルで人生の意味を理解すること

それに比べれば、厳密な区別が難しいことは重要な問題でない

(Wolf 1997: 113)

## 4. 論争可能性：RDテーゼのモチベーション（4）

---

---

RD

RDテーゼを守りたいのは、論争可能性を確保したいから

その上、真理の多元主義を前提すればRDテーゼの方が説得的

MIテーゼの側も、RDテーゼの問題意識は認めている

MI

大切なのは、一般的なレベルで人生の意味を理解すること

それに比べれば、厳密な区別が難しいことは重要な問題でない

(Wolf 1997: 113)

## 4. 論争可能性：適合的充足説の再構成

---

---

### 適合的充足説 (fitting fulfillment view)

客観的的魅力に主観的魅了が**出会う**とき、意味が生まれる。

Meaning arises when subjective attraction **meets** objective attractiveness.

### 反応依存性テーゼ (response dependency thesis)

xが価値Vをもつのは、xが特定の感情Eを**適切 (appropriate)** にするようなものであるとき、かつそのときに限られる。

➤ 適合的充足説は、賢明な主観主義として再構成可能

## 5. おわりに

---

1. はじめに
  2. Wolfの客観主義
  3. Wigginsの主観主義
  4. 論争可能性
  5. おわりに
- ・・・ まとめ



## 5. おわりに

---

---

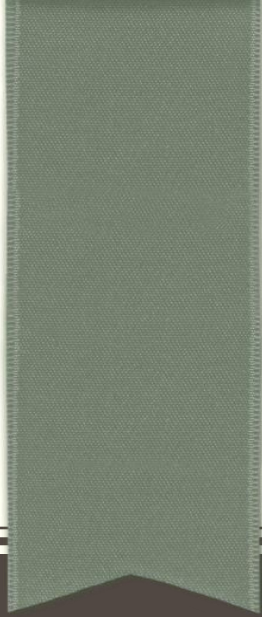
- 啓示の反論は、人生の意味の主観主義に対する強力な批判
  1. 主観主義だと、世界との関わりを説明できない
  2. 主観主義だと、人生の意味判断の真理を説明できない
  3. 主観主義だと、人生の意味の心的独立性を説明できない
- しかし、Wigginsの賢明な主観主義であれば応答可能
  1. 人生の意味の外在主義
  2. 真理の多元主義
  3. 反応依存性テーゼ
- 賢明な主観主義は、振り返る価値のある有望な理論

# 文献

---

---

- Johansson, J. & Svensson, F., 2022, “Subjectivism and Objectivism about Meaning in Life,” Landau, I. ed., *The Oxford Handbook of Meaning in Life*, Oxford University Press, 43-57.
- Landau, I., 2021, “Externalism, internalism, and Meaningful Lives,” *Ratio*, 34: 137-46.
- Lynch, M., 2004, “Truth and Multiple Realizability,” *Australasian Journal of Philosophy*, 82: 384-408.
- Metz, T., 2013, *Meaning in Life*, Oxford University Press.
- Misak, C., 2022, “A Sensible Pragmatist Conception of Truth,” *Philosophy*, 97: 275-94.
- Prinz, J., 2007, *The Emotional Construction of Morals*, Oxford University Press.
- Taylor, R., 1984, *Good and Evil*, Prometheus Books.
- Wiggins, D., [1987a] 2002, “Truth, Invention and the Meaning of Life,” *Needs, Values, Truth: Essays in the Philosophy of Value*, Third Edition Amended, Oxford University Press, 87-138. (古田徹也訳)
- ———, [1987b] 2002, “A Sensible Subjectivism?,” *Needs, Values, Truth: Essays in the Philosophy of Value*, Third Edition Amended, Oxford University Press, 185-214. (萬屋博喜訳)
- Wolf, S., 1982, “Moral Saints,” *The Journal of Philosophy*, 79: 419-39. (佐々木拓訳)
- ———, [1997] 2014, “Happiness and Meaning: Two Aspects of the Good Life,” *The Variety of Values: Essays on Morality, Meaning, and Love*, Oxford University Press, 107-26.
- ———, [2007] 2014, “The Meanings of Lives,” *The Variety of Values: Essays on Morality, Meaning, and Love*, Oxford University Press, 89-106.



# Appendix

# A. 主観主義と非認知主義

---

---

- 〈素朴な主観主義〉は、正確には〈素朴な非認知主義〉
- 価値に関する存在論と認識論は、混同されるべきでない
  - たとえば、錯誤説は主観主義（存在論） + 認知主義（認識論）
- ただし、賢明な主観主義は存在論と認識論のセットとして見るべき

	内在主義／外在主義	一元主義／多元主義	心的独立／反応依存
Wolfの客観主義	外在主義	一元主義？	心的独立
Wigginsの主観主義	外在主義	多元主義？	反応依存

## B. 端的な真理

---

---

- 端的な真理は、六つの〈自明の理 truism〉によって特徴づけられる
  1. 判断の評価軸として、真理が最上位である。
  2. 真理は、証拠にもとづいた議論のあり方を説明できなければならない。そもそも議論は、良好な条件の下では合意へと収斂するものであって、その合意についての適切な説明はまさにその真理を必要とする。
  3. 真理は、われわれの意志と独立であるのみならず、ある言明の属性の存在ないし不在を認識するわれわれ自身の限られた手段に対しても独立性をもつ。
  4. あらゆる真理は何かによって真である。
  5. あらゆる端的な真理は他のあらゆる端的な真理と両立可能である。
  6. 真理は完全な確定性をもち、また、その答えが真理をもつことを志向するような問いもすべて完全な確定性をもち。

(Wiggins 1987a: 115=2014: 182)

## C. 真理の多元主義とプラグマティズム

---

- Wigginsは真理の多元主義ではなく、プラグマティズムに立つかも
  - 実際、Misak (2022) によると1980年代半ば以降はその方向へ進んでいく
- 逆に言えば、それまでは多元主義者として読んでも良さそう
- 多元主義にプラグマティズムを組み込むことは可能なんですかね？

- ちなみに、Wigginsは価値述語の成立過程を進化に擬えている
  - その過程の研究は、自然主義にも開かれていると発表者は考える

(Wiggins 1987b: 196=2014: 251)

## D. 反応依存性テーゼと客観主義

---

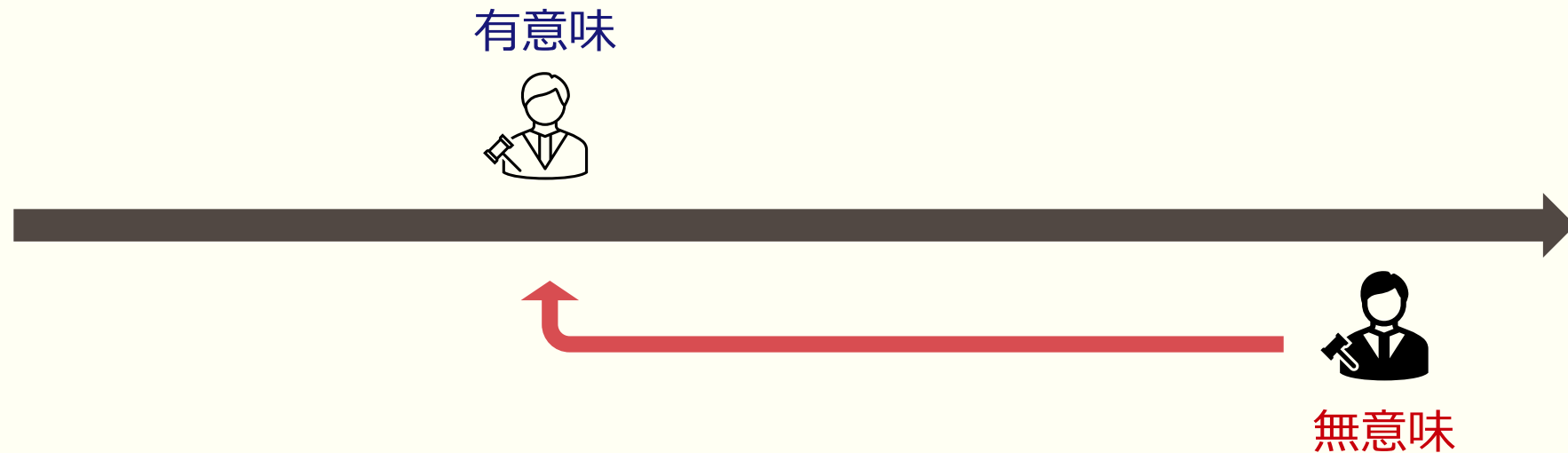
- 共同体の反応に訴えるRDテーゼは、もはや客観主義ではないか
- RDテーゼは、以下のどの客観性にも当てはまらない (Prinz 2007: 138-41)
  - 理性的不偏性 (rationally impartiality) : 推論規則に従う
  - 超越論的客観性 (transcendental objectivity) : 心が存在しない世界でも可能
  - 表象的独立性 (representation independence) : ↑はこれの強いバージョン
  - 心理学的事実 (psychological facts) : 視覚システムに関する事実など
  - 意図の産物 (intentional product) : 容疑者性など
- 間主観主義とは呼べるかもしれないが、論争可能性に留意すべき  
(cf. Metz 2013: sec. 9.5)

## E. イリイチの事例

---

---

- 賢明な主観主義はイリイチの事例をどのように説明するのか
  - 過去の判断と現在の判断は、どちらも主張可能ではある
  - しかし、過去と現在とで主体の**物語**に大きな変化が生じた事例だと考える



※ この点に関しては別稿準備中